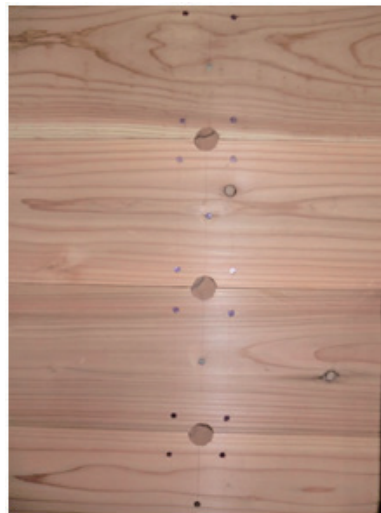
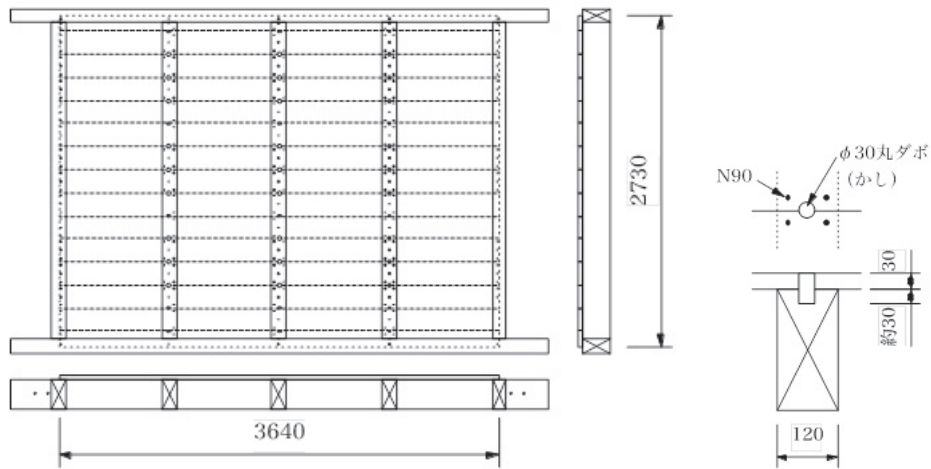


## ●姿図・寸法



## 【使用材料】

木材：

梁桁材：スギ、断面寸法：120 × 240mm

板材：t=30mm、働き巾 190mm、長さ 1820、本実加工有り（スギ）

丸ダボ：かし、φ 30（床板施工後に、所定の位置にドリルによりφ 30の穴あけ加工を施し、そこに丸ダボを打ち込む。丸ダボの長さは床板の厚みの2倍程度とし、丸ダボは床板を貫通して梁上部にも落とし込んでいる。）

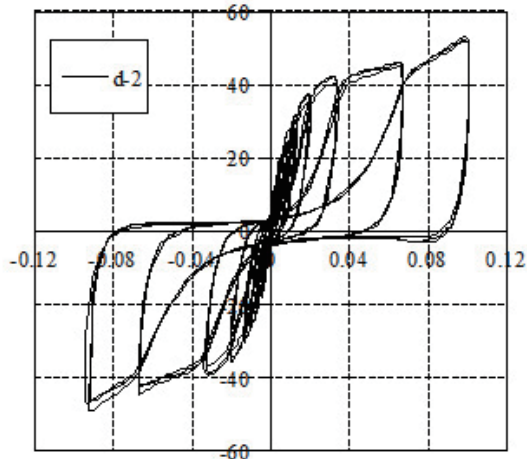
接合具：両端部の釘は、N90釘を1箇所あたり3本用いている（釘ピッチは70mm）。ただし、丸ダボの両側は、N90の釘を2本にしている。

仕口接合：仕口は腰掛け蟻継ぎとし、四隅の仕口にはビス留めホールダウン金物を使用。

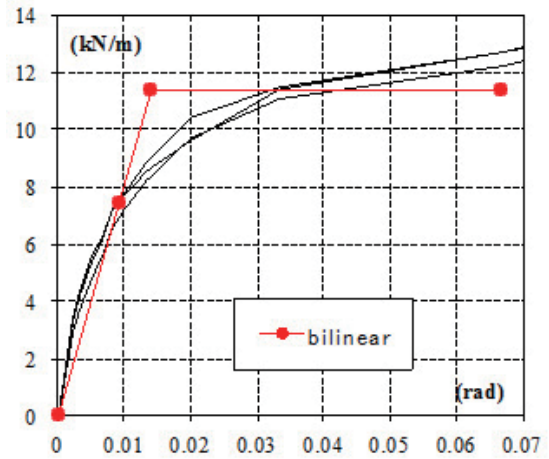
## ●参照先

- ・ 特定非営利活動法人 緑の列島ネットワーク：平成23年度国土交通省補助事業報告書 伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会報告書、平成24年

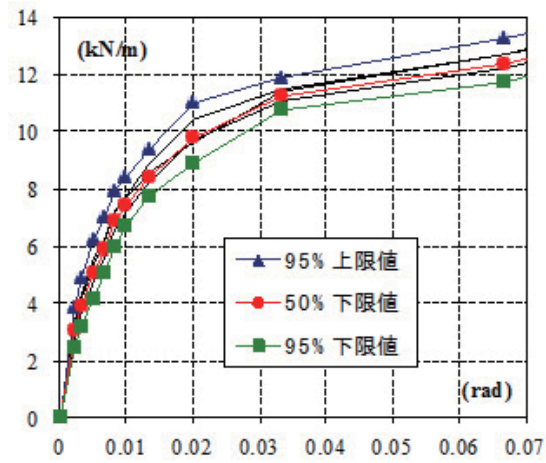
●荷重変形



【全データ】



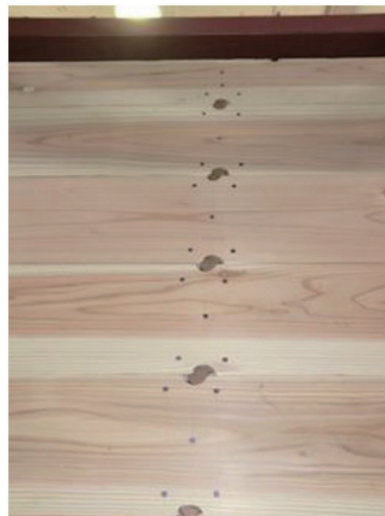
【正側包絡線】



【代表点】

●破壊性状

変形の進行に伴い、板壁が局所的に圧縮破壊し、板のずれ変形が進行した。載荷終了後に試験体を解体し、ダボの損傷状況を確認したところ、ダボはほぼ無損傷であった。



6	水平構面等 - 床・野地板		
3	半剛床		

## 概要

板幅が 120 ～ 300mm 程度の小幅板を下地材として梁桁材に釘脳天打ちした床構面である。仕上げ用の床のように実部分から釘を斜め打ちして留め付けるような仕上げ用の床構面は、対象外である。また、床板間のずれ変形を拘束することで、拘束用の留め具のないタイプよりも初期剛性と耐力の向上を意図したものである。

### ○力の伝達方法

小幅板を用いた床構面では板幅が非常に小さいことから、板の長手方向へのずれ変形が支配的となるが、このずれ変形を拘束するための留め具を併用した床構面試験体である。具体的には、仕上げ床用の根太を用いたものや、床板間にダボを用いた床構面である。

### ○設計における考え方と適用範囲

現段階では床板間のせん断キーの一面せん断性能のデータがないため、理論式により算出することができない。そこで、実験データは床倍率換算して示す。

### ○データ収集の対象とした文献

対象とした文献の一覧を以下に示す。

使用データ No.	文献
No.8 ～ 10	・ 特定非営利活動法人 緑の列島ネットワーク：平成 23 年度国土交通省補助事業報告書 伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会報告書、平成 24 年

6	水平構面等 - 床・野地板		
3	半剛床		

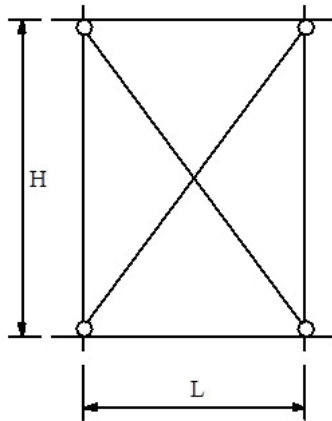
## 解説

### ○構造システムと施工の注意点

施工の際は、定められた釘のピッチを遵守すること、釘頭を過度にめり込ませないことが重要である。

### ○解析モデル

解析モデルとしては、床板の剛性を等価軸剛性を持つブレースに置換することでモデル化が可能である。



床構面のモデル化